

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）

分担研究報告書

一人暮らし認知症高齢者の生活状況等の実態に関する研究

研究分担者 川越雅弘 埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科・教授

研究協力者 南 拓磨 埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科・特任助教

研究要旨

【目的】一人暮らし認知症高齢者の生活状況等（基本特性，日常生活活動（IADL/ADL），外出頻度，療養場所）の特徴を、一人暮らし以外の認知症高齢者との比較を通じて明らかにする。

【方法】2018年9月末時点のA市の要支援・要介護認定者に関する世帯情報（住民基本台帳ベース）、及び認定・給付データを、A市が付与した任意の共通番号をもとに連結した上で、一人暮らしとそれ以外の認知症高齢者群間で比較した。

【結果】データを分析した結果、

- ① 独居認知症群は同居認知症群に比べて、女性が多く、年齢が高く、要介護度が重度であった
- ② IADLの要介護度別自立度（介助の有無と程度）は、男女とも独居認知症群の方が高い傾向にあった
- ③ ADLの要介護度別自立度は、項目によって2群間の有意性の傾向に違いがあった
- ④ 外出頻度が週1回未満（閉じこもり）の割合をみると、男性の「要支援2」、女性の「要支援1～2」では同居認知症群の方が、それ以外は、独居認知症群の方が相対的に高かった
- ⑤ 要支援者の療養場所をみると、男女とも、独居認知症群において、特定施設の入居率が高かった。また、在宅療養率をみると、すべての要介護度において独居認知症群の方が低かった

などがわかった。

【考察】独居認知症群の「買物」「簡単な調理」の自立度をみると、要支援～軽度要介護状態において有意に高かったが、これは、独居認知症群の場合、買物や簡単な調理をせざるを得ない状況に置かれているため、自立度が高い可能性が、逆に、同居認知症群では、同居家族が買物や簡単な調理を行うために、認知症高齢者がこれら行為を行う機会が少なく、その結果として自立度が低下している可能性が示唆された。

また、独居認知症群の閉じこもり率をみると、要支援状態では相対的に低い一方で、要介護状態では男女とも相対的に高かったが、これは、要介護1から歩行機能低下が生じるため、独居認知症群では外出のしにくさが生じている可能性が、一方、同居認知症群では、同様の歩行機能低下は生じているものの、家族等と外出する機会が相対的に確保されているため、閉じこもり率が低い可能性が示唆された。

A. 研究目的

一人暮らし認知症高齢者に関する先行研究をみると、居宅介護支援事業所の利用者における出現率に関する研究¹⁾、要介護度や手段的日常生活活動（Instrumental activities of daily living: IADL）に関する研究¹⁻²⁾、利用サービスに関する研究³⁾、在宅生活の継続を阻害する要因に関する研究⁴⁾などはあるものの、報告数は少なく、かつ、調査対象も限定的であり、一人暮らし認知症高齢者の特性、日常生活活動、療養場所などに関する全体的な状況やその特徴は明らかにできていない。

そこで、本研究では、A市の要支援・要介護認定者を対象に、一人暮らし認知症高齢者の生活状況等（基本特性、IADL/ADL、外出頻度、療養場所）の特徴を、一人暮らし以外の認知症高齢者との比較を通じて明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

2018年9月末時点のA市の認定者に関する世帯情報、及び認定・給付データをA市が付与した任意の共通番号をもとに連結した上で、一人暮らし認知症高齢者群（以下、独居認知症群）と一人暮らし以外の認知症高齢者群（以下、同居認知症群）の二群間比較を実施した。なお、認定データに基づく分析であるため、本稿では、「認知症高齢者の日常生活自立度（以下、認知症自立度）がⅡ以上」を認知症とした。

（倫理面への配慮）

本研究は、埼玉県立大学埼玉県立大学倫理審査委員会の許可を得て実施している（通知番号：19007）。

C. 研究結果

1) 基本特性

2018年9月末時点のA市の認知症高齢者は16,550人で、うち、独居認知症群は8,305人、同居認知症群は8,245人であった。

ここで、男性の割合をみると、「独居認知症群」19.3%、「同居認知症群」43.4%、平均年齢をみると、「独居認知症群」85.8±7.4歳、「同居認知症群」83.7±7.3歳と、独居認知症群は同居認知症群に比べ、女性の割合、平均年齢が高かった。また、要介護度も、独居認知症群は同居認知症群に比べ、重度であった（表1）。

表 1. 基本特性

	独居認知症群 (n=8,305)	同居認知症群 (n=8,245)
男性（人）	1,602	3,577
男性比（%）	19.3	43.4
年齢（歳） (mean±SD)	85.8±7.4	83.7±7.3
要介護度（%）		
-要支援1	1.7	2.9
-要支援2	3.5	3.5
-要介護1	24.0	29.2
-要介護2	21.5	21.7
-要介護3	20.2	17.2
-要介護4	16.6	14.2
-要介護5	12.6	11.4

2) IADL/ADL

認定調査項目のうち、IADL4項目（薬の内服、金銭の管理、買物、簡単な調理）とADL5項目（歩行、排便、洗身、ズボン等の着脱、食事摂取）について、何らかの見守りや介助を要する割合を二群間比較した。

まず、IADLをみると、薬の内服の「男性：要支援1」、金銭の管理の「男性：全要介護度」「女性：要支援2～要介護1」、買物の「男性：要支援1～要介護2」「女性：要支援2～要介護2」、簡単な調理の「男性：要支援1

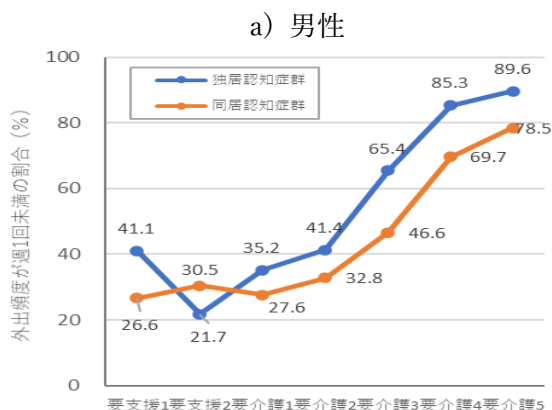
～要介護 3」「女性：要支援 2～要介護 2」で
 独居認知症群の自立度が有意に高かった
 (表 2)。

次に、ADL をみると、歩行の「男女：要介
 護 1」、排便の「男性：要介護 1」、洗身の「男
 性：要支援 1 と要介護 1～2」「女性：要介護
 1～2」で同居認知症群の自立度が、一方、排
 便の「男性：要介護 2」、ズボン等の着脱の
 「男性：要支援 2・要介護 1・要介護 3」「女
 性：要介護 2」、食事摂取の「男性：要介護
 2」で独居認知症群の自立度が有意に高かつ
 た (表 2)。

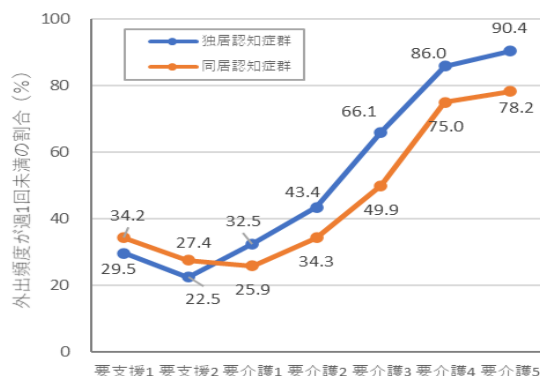
3) 外出頻度

外出頻度が週 1 回未満の割合をみると、
 男性の「要支援 2」、女性の「要支援 1～2」
 では同居認知症群の方が、それ以外は、独居
 認知症群の方が相対的に高かった (図 1)。

図 1. 外出頻度が”週 1 回未満”の人の割合



b) 女性



4) 療養場所

表 3 に、性別要介護度別にみた療養場所
 の状況を示す。なお、療養場所は、2018 年
 9 月の介護サービス利用状況から、①在宅、
 ②特定施設、③認知症グループホーム (以
 下、認知症 GH)、④介護老人福祉施設 (以下、
 特養)、⑤介護老人保健施設 (以下、老健)、
 ⑥療養病床、⑦特定不能の 7 区分に分類し
 た。なお、給付を受けていない場合は在宅扱
 いに、また、同一月内に複数の療養場所区分
 に該当した場合は特定不能の区分に分類し
 た。

ここで、独居認知症群の療養場所をみる
 と、要支援 1～2 では、男女とも、在宅、特
 定施設の順、要介護 1 では、男女とも、在
 宅、特定施設、認知症 GH の順、要介護 2 で
 は、男性は、在宅、特定施設、認知症 GH の
 順、女性は、在宅、認知症 GH、特定施設の
 順、要介護 3 では、男女とも、在宅、特養、
 認知症 GH の順、要介護 4 では、男性は、在
 宅、特養、老健の順、女性は、特養、在宅、
 老健の順、要介護 5 では、男性は、在宅、
 特養、老健、女性は、特養、在宅、老健の順
 であった。ちなみに、在宅療養率は、すべて
 の要介護度で、男女とも独居認知症群の方
 が低かった (表 3)。

D. 考察

1) 独居認知症群の IADL の自立度が高い理由について

買物の自立度をみると、男性では、要支援 1 から要介護 2、女性では、要支援 2 から要介護 2 において、独居認知症群の自立度が有意に高かった。また、簡単な調理もほぼ同様の結果であった。独居認知症群の場合、買物や簡単な調理をせざるを得ない状況に置かれているため、自立度が高い可能性が示唆された。逆に、同居認知症群では、同居家族が買物や簡単な調理を行うために、認知症高齢者がこれら行為を行う機会が少なく、その結果として自立度が低下している可能性も示唆された。

2) 独居認知症群で閉じこもり率が高い理由について

閉じこもりの状況をみると、要支援 2 の男性、要支援 1～2 の女性において、独居認知症群の閉じこもり率が相対的に低い一方で、要介護 1 以上では男女とも独居認知症群の閉じこもり率が相対的に高かった。

要支援状態では歩行状態はほぼ自立状態にあるが、要介護 1 から歩行機能低下が生じるため、独居認知症群では外出のしにくさが生じている可能性が、一方、同居認知症群では、家族等と外出する機会が独居認知症群より確保されていることを反映した結果ではないかと考えた。

閉じこもり状態は生活機能の低下要因でもあることから、一人暮らしの認知症高齢者の外出支援策をどのように展開するかが今後重要となると考えた。

E. 結論

要支援・要介護認定者を対象に、一人暮らし認知症高齢者の生活状況等（基本特性、IADL/ADL、外出頻度、療養場所）を明らかにすることを目的に、A市の人口・認定・給付データの分析を実施した。

その結果、①独居認知症群は同居認知症群に比べて、女性が多く、年齢が高く、要介護度が重度であった、②IADLの自立度は、男女とも独居認知症群の方が高い傾向にあった、③ADLは項目によって2群間の有意性の傾向に違いがあった、④外出頻度が週1回未満（閉じこもり）の割合をみると、男性の「要支援2」、女性の「要支援1～2」では同居認知症群の方が、それ以外は、独居認知症群の方が相対的に高かった、⑤要支援者の療養場所をみると、男女とも、独居認知症群において、特定施設の入居率が高かったまた、在宅療養率は、すべての要介護度において独居認知症群の方が低かったなどがわかった。

今後、他の市町村のデータも入手し、これら傾向の共通性と地域による相違点について分析を深めていく予定である。

(参考文献)

- 1) 下垣 光, 矢部正治, 金井一薫: 独居生活を送っている認知症高齢者の生活実態と支援について 居宅介護支援事業所への調査から. 老年社会科学, 30(2): 361 (2008) .
- 2) 川合承子: 要支援・要介護認定を受けたひとり暮らし在宅高齢者の買い物・調理と日常生活自立度との関連および実行に必要な要因についての検討. 国際医療福祉大学紀要, 16(1-2): 54-62 (2011) .

- 3) 松下由美子：認知症高齢者の一人暮らし継続のために活用されるケアサービス ケアマネージャーへの聞き取りから．日本在宅看護学会誌、4(1)：135 (2015) ．
- 4) 久保田真美，堀口和子：認知症高齢者の独居生活の継続が困難になる要因 介護支援専門員・訪問看護師・訪問介護員へのインタビューより．日本認知症ケア学会誌，18(3)：688-696 (2019) ．

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 川越雅弘，南拓磨：一人暮らし認知症高齢者の出現率および生活状況の実態：介護保険データより．老年精神医学雑誌，31 卷 5 号 (印刷中)．

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

表 2. 性別要介護度別にみた IADL/ADL に”見守りや介助を要する”人の割合 (%)

a)男性

項目名	群	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
薬の内服	独居群	73.2*	82.6	92.9	96.9	99.7	100.0	100.0
	同居群	85.5	78.1	93.7	96.8	99.7	100.0	100.0
金銭の管理	独居群	73.2*	50.7**	76.5**	87.5**	94.8**	97.3**	98.1**
	同居群	87.9	81.3	91.0	95.6	98.2	99.8	100.0
買物	独居群	76.8**	73.9**	83.3**	96.4**	99.7	100.0	100.0
	同居群	90.3	90.6	96.4	99.6	99.8	100.0	100.0
簡単な調理	独居群	62.5**	46.4**	69.4**	86.1**	97.7**	86.6	80.5
	同居群	79.8	82.8	90.2	96.2	99.5	84.2	73.3
歩行	独居群	32.1	56.5	49.1	68.9	77.6	96.9	99.4
	同居群	29.0	62.5	43.0*	72.8	80.8	96.4	97.8
排便	独居群	0.0	4.3	11.6	40.6*	92.7	98.7	100.0
	同居群	0.0	6.3	7.7*	47.2	92.5	99.2	99.7
洗身	独居群	32.1	39.1	59.2	90.3	99.4	100.0	100.0
	同居群	16.9*	37.5	44.2**	84.4**	98.5	100.0	100.0
ズボン等の着脱	独居群	1.8	5.8*	13.7**	60.0	94.2**	100.0	100.0
	同居群	2.4	16.4	20.7	65.6	97.7	99.8	99.7
食事摂取	独居群	1.8	0.0	2.0	5.6**	23.0	51.8	94.8
	同居群	0.8	3.1	3.7	10.9	26.1	55.4	94.0

b)女性

項目名	群	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
薬の内服	独居群	76.1	66.1	90.7	96.6	99.5	100.0	100.0
	同居群	72.1	62.8	90.2	96.4	99.5	100.0	99.8
金銭の管理	独居群	65.9	45.0**	80.6*	92.4	97.4	99.5	99.7
	同居群	64.0	62.8	84.0	93.7	97.6	99.4	99.6
買物	独居群	69.3	68.3**	86.3**	97.3**	100.0	100.0	100.0
	同居群	78.4	80.5	91.1	98.9	99.9	100.0	100.0
簡単な調理	独居群	56.8	38.1**	62.8**	86.3**	98.8	87.0	88.1
	同居群	56.8	57.9	72.1	91.7	99.5	87.6	86.1
歩行	独居群	42.0	77.5	60.3	79.3	86.0	97.5	98.8
	同居群	39.6	76.8	56.2*	79.7	87.8	97.9	99.1
排便	独居群	0.0	2.3	5.5	41.2	91.4	99.7	100.0
	同居群	0.9	2.4	5.2	41.3	92.4	99.6	100.0
洗身	独居群	19.3	43.1	58.4	91.6	99.5	100.0	100.0
	同居群	24.3	42.7	47.5**	87.5**	98.9	100.0	100.0
ズボン等の着脱	独居群	0.0	5.0	11.6	50.8**	95.3	99.8	100.0
	同居群	2.7	7.3	13.7	58.0	94.7	100.0	100.0
食事摂取	独居群	0.0	0.0	1.5	6.9	22.5	61.7	94.5
	同居群	0.0	0.6	1.8	8.2	24.5	54.0**	94.2

注 1. 網掛部分は 2 群間に有意差があった項目である。有意に自立度が高い群に*ないし**を付けている。

注 2. n 数が少ない箇所は Fisher の直接確率検定を、それ以外は χ^2 検定を用いている

注 3. * p<0.05, ** p<0.001

表 3. 性別要介護度別にみた療養場所の状況 (%)

a)男性

要介護度	群	n数 (人)	在宅	特定 施設	認知症 GH	特養	老健	療養 病床	特定 不能
要支援 1	独居群	56	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	同居群	124	98.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援 2	独居群	69	92.8	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	同居群	128	96.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護 1	独居群	395	82.5	8.4	6.6	0.3	2.3	0.0	0.0
	同居群	1010	93.9	3.1	1.4	0.1	1.6	0.0	0.0
要介護 2	独居群	360	72.2	10.3	8.3	2.8	6.4	0.0	0.0
	同居群	790	89.0	2.3	4.3	0.6	3.8	0.0	0.0
要介護 3	独居群	344	52.6	7.3	14.5	15.1	9.3	0.6	0.6
	同居群	663	75.1	4.4	4.2	8.6	7.5	0.2	0.0
要介護 4	独居群	224	44.2	7.1	8.9	24.6	13.4	1.3	0.4
	同居群	495	63.6	3.8	2.8	14.5	11.9	2.8	0.4
要介護 5	独居群	154	43.5	3.9	7.1	27.9	12.3	4.5	0.6
	同居群	367	61.6	3.5	3.5	15.8	11.7	3.8	0.0

b)女性

要介護度	群	n数 (人)	在宅	特定 施設	認知症 GH	特養	老健	療養 病床	特定 不能
要支援 1	独居群	88	88.6	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	同居群	111	94.6	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援 2	独居群	218	95.4	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	同居群	164	98.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護 1	独居群	1596	79.4	8.4	7.5	0.8	3.9	0.0	0.0
	同居群	1396	92.5	3.7	2.2	0.0	1.6	0.0	0.0
要介護 2	独居群	1425	67.6	8.7	13.3	2.4	7.7	0.1	0.1
	同居群	1001	86.3	3.5	5.4	1.1	3.3	0.2	0.2
要介護 3	独居群	1332	45.6	7.8	15.8	18.7	11.6	0.2	0.3
	同居群	754	68.2	5.6	9.2	8.4	7.6	0.8	0.4
要介護 4	独居群	1155	30.8	5.9	8.9	35.8	15.9	2.3	0.3
	同居群	672	51.3	5.5	8.3	19.0	11.3	4.3	0.1
要介護 5	独居群	889	29.5	5.3	9.3	40.6	11.9	3.4	0.0
	同居群	570	47.0	5.8	8.4	23.3	11.1	4.0	0.4

注1. 療養場所は給付データをもとに、①在宅、②特定施設、③認知症グループホーム、④特養、⑤老健、⑥療養病床、⑦特定不能の7区分に分類した。なお、給付を受けていない場合は在宅扱いとした。

注2. 同一月内に複数の療養場所区分に該当した場合は特定不能の区分に分類した。